

たより from おんがた

発行人

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
 恩方育成園 施設長 久保田 美幸
 〒192-0154 八王子市下恩方町 2794-1
 Tel 042(652)3825 Fax 042(652)3826



2021年 未来への羅針盤～「願いを実現する」施設づくりへの挑戦～

朝一番、気合を入れないと布団から抜け出せない日々、恩方の山から下りてきた夕暮を発見した時に、毛並みの良さに暖かそうだと冬の寒さを深々と感じる季節ですが、夜には天空にオリオン座が輝き、宝石のような星空に思わず「大自然の宝石箱や～！」とつぶやき、未だ先が見えない新型コロナウイルス感染症の予防対策に奔走する日々が続いています。年末年始、緊急事態宣言、医療崩壊、トリアージ等、新型コロナウイルス感染症と向き合っている医療従事者と利用者の安心・安全に奔走する福祉従事者及びエッセンシャルワーカーの皆様に「ありがとう」と感謝を贈り、ワクチン接種の早期実施と新型コロナウイルス感染症の終息を心より願っています。

2021年は「丑年」。干支のまつわる物語から「勤勉」「誠実さ」の象徴とされ、丑年は、「耐える」「これから発展する前触れ、芽が出る」年と言われ、コツコツと目の前のごとを一生懸命に取り組んでいくことが将来につながると考えられているそうです。

どんなに重い障害があっても、地域で普通に暮らすことを実現させ、地域に偏見や理不尽な差別がなく、一人の人間として当たり前存在している。これが私の願いです。

前号でご紹介しました春山廣輝氏の「彼等の願いを原点に」において、「障害が重いからグループホームではそれは無理なんだと・・・(中略)・・・だから障害が重い人たちのためには、入所施設が必要なんだということが盛んに言われていますけれども、・・・(中略)・・・重度だから地域の中で生活することができないのだと、だから施設なんだということを第1番目に持ってくるべきではないということ、はっきりと私は申し上げておきたいと思います。」とあります。

また、先日、運の良し悪しを心理学的に解説した「認知的焦点化理論」を知ることがありました。京都大学の藤井聡教授が「人が心の奥底で何に焦点を当て

ているか」によって、運の良し悪しが決まるとの考え方で、焦点を当てる範囲を「配慮範囲」として、現在から未来への時間軸の縦軸と自分から他人・社会への関係軸の横軸を結ぶ曲線で囲まれた範囲をいうようです。つまり、自分や現在のことにだけ配慮する「利己的な人」ではなく、他人や社会全体の将来まで配慮できる「利他的な人」ほど、得をえることができるという理論とのこと。

今年度より当園のミッションを「私たちは、一人ひとりに在る力を活かして、本人らしい人生を実現します。」とし、「願いを実現する」施設(地域生活支援施設)づくりの中長期計画を策定して取り組んでいます。職員一人ひとりの「心の奥底で何に焦点を当てているか」が重要となっています。「一人ひとりに在る力」は、利用者だけではなく、職員も仕事を通して自らのエンパワーメントを活かして自己実現することです。「私は今なぜここにいるのか?」「私にとっての利用者とは何か(どのような存在か)?」職員への問いかけです。ある職員から「利用者にとって、ここが終着点ではなく、ここから始まるのがわかって希望ができました。」とありました。

昨年、2名の方が地域生活(地域移行)を始め、2名の方にリハビリ支援を提供して新たな一歩を踏み出し、それぞれの方が自らの人生を歩み始めました。現在も様々なエピソードを抱える一人ひとりの本人らしい人生・願いを実現するための支援に取り組んでいます。この取り組みが、親亡き後や8050問題を背景とした本人の新たな幸福追求への支援の一つでもあります。

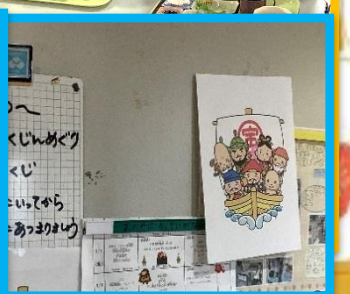
「誰のための、何のための、恩方育成園か」私たち一人ひとりが自らの使命を自覚し、「主体性」を持ちミッション達成に向けて、過去から今を考えるのではなく未来から今を創造し、今日より明日へと「新たな発想」と「継続的改善」に取り組む『進化系未来思考』が未来への羅針盤です。

施設長 久保田 美幸

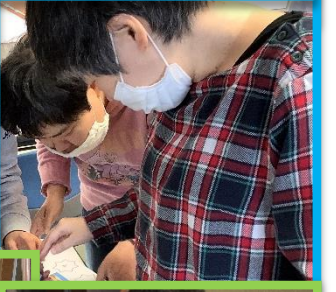
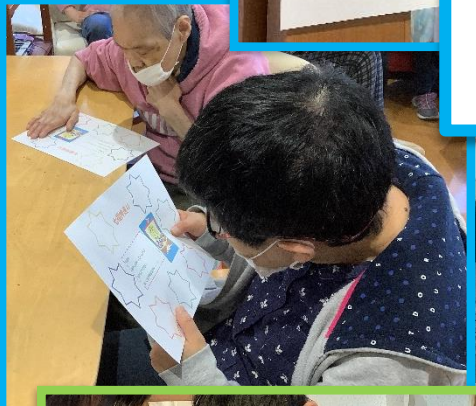
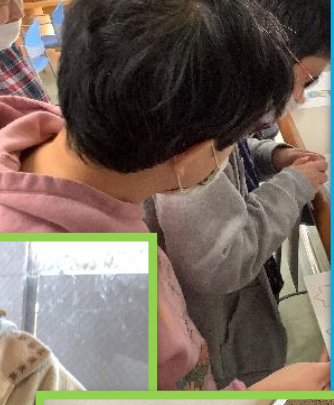
恩方での 年末年始



おせちや年越しそばを
食べました!



初詣に行ったり、
施設内にある
七福神巡り!



余暇では福笑いで
遊んだりして過ご
しました!



2021年

良い年に
なりますように...

クリスマス会



食事介助の際に職員は、フェイスガードをして感染予防をしています。



サンタさんからプレゼント!!



ダンス♪ダンス♪



救命講習を通じて学んだ大切な事

令和2年12月7日施設内にて普通救命講習を受けました。普通救命講習とは、公益財団法人 東京防災救急協会主催で都内の各消防署にて開講されていて、けが人や急病人が発生した場合に必要な命を守る知識とスキル習得を目的に、心肺蘇生やAEDの使い方、けがの手当など、応急手当を習得することができます。今年度、恩方育成園では21名の職員がこの講習を受講し、修了証を取得しました。今回は元八王子出張所より、講師として3名の方に来ていただきました。

突然の事故や病気などで救急車を呼ぶような現場に遭遇した時、バイスタンダー（その場に居合わせた人）が応急手当を行なう事で救命効果が上昇し治療の経過にもいい影響を与えます。救急車が要請を受けてから現場に到着するまでに、都内でも7～8分掛かると言われています。一方、心臓や呼吸が止まった人の命が助かる可能性はその後の10分間で急激に少なくなっていくそうです。その事からも救急車到着までの時間が傷病者の生命を大きく左右すると言えます。



講習では、救命処置の定義となっている「心肺蘇生」「AEDを用いた除細動」「気道異物除去」の3つの処置に重点を置いて学ぶ事ができました。新型コロナの影響で、救命処置の方法にも変更点があるとの事で、傷病者の口元をハンカチなどで覆い、人工呼吸は行なわないなど感染対策も並行して行ないました。心肺停止はいつでもどこで発生するか分からない恐ろしい症状です。



職場の利用者様だけではなく、自分の大切な人や誰かの大切な人の生命が危険な場面に遭遇した時、落ち着いて自信と勇気をもって行動する事が大切です。昨今、医療機関は勿論のこと駅やデパート、コンビニなどでも見かける事が多くなったAED。そのAEDを目にする度に、今回の研修で学んだ事を振り返り、いざという時に行動できる自分でありたいと思いました。

広報委員会 佐藤

恩方育成園ではスタッフ及びボランティアを募集しています！
お気軽にお問合せください♪

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
障害者支援施設 恩方育成園

〒192-0154 東京都八王子市下恩方町 2794-1
TEL 042-652-3825 FAX 042-652-3826
URL <http://www.ikuseikai-ky.or.jp/~iku-ongata/>

採用担当：根岸、本田、田代
ボランティア担当：門倉志保

編集後記

令和2年はコロナに利用者さんも影響を受け、外出、帰宅が出来ずストレスが溜まったり、ご家族とも会えず寂しい思いをされましたが、施設全体、各フロアでイベントなどを考え、皆さんが笑顔になって頂けるよう、職員一同試行錯誤してきました。皆さんがコロナに負けずに健康で、笑顔で過ごしている様子を手に取って頂いた皆様にお伝えできればと思っております。 広報委員会 日暮